

経営比較分析表（令和2年度決算）

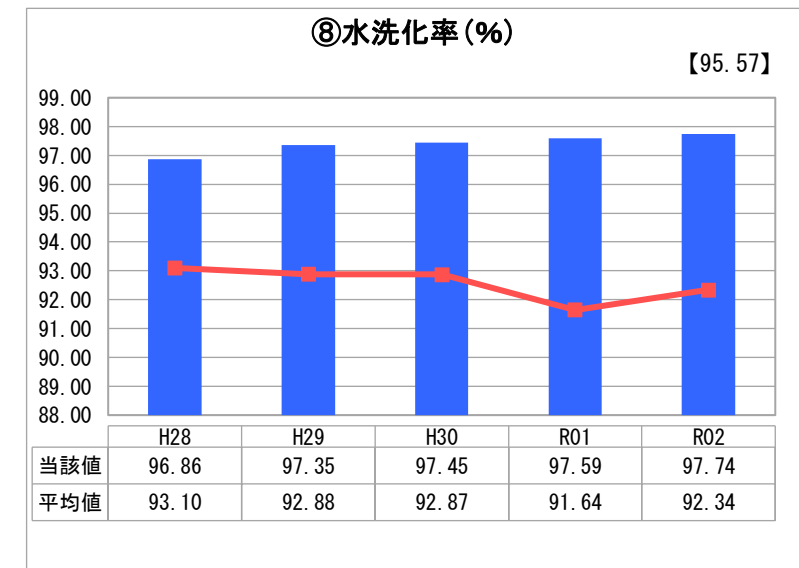
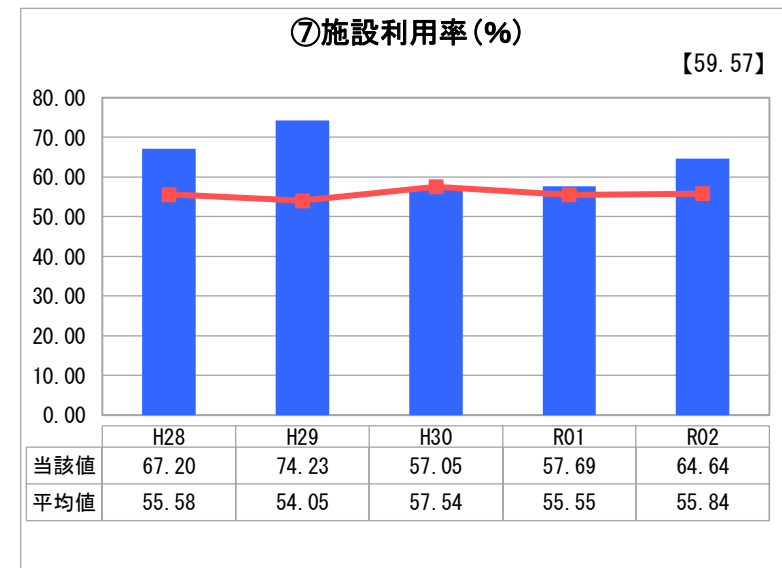
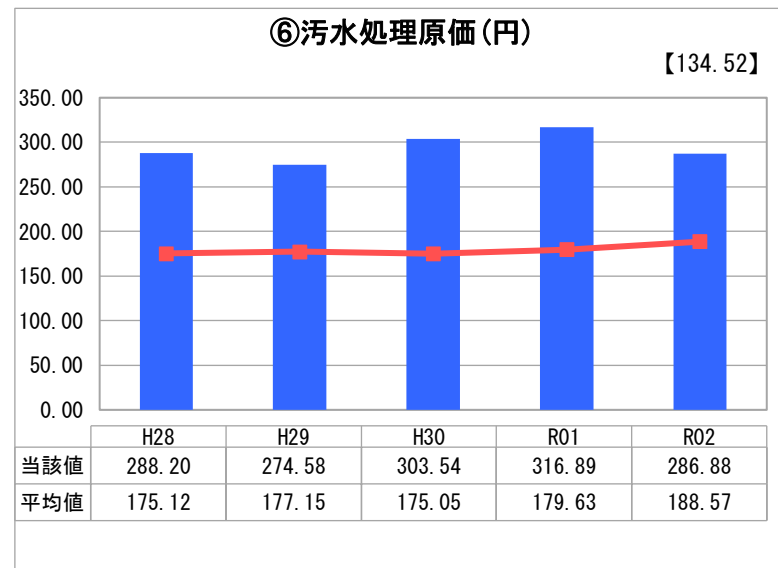
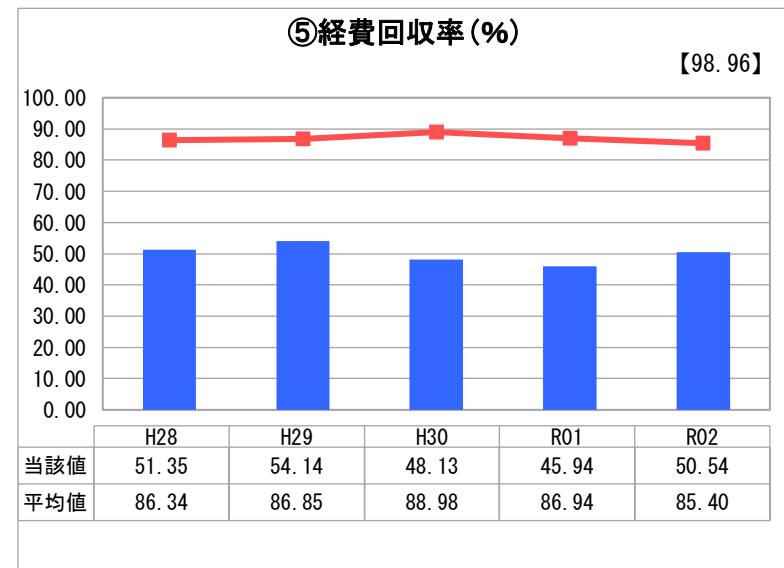
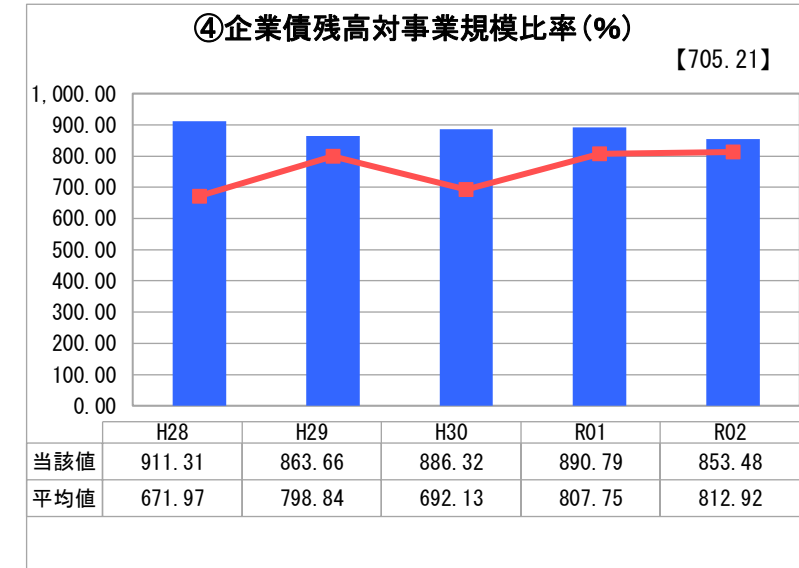
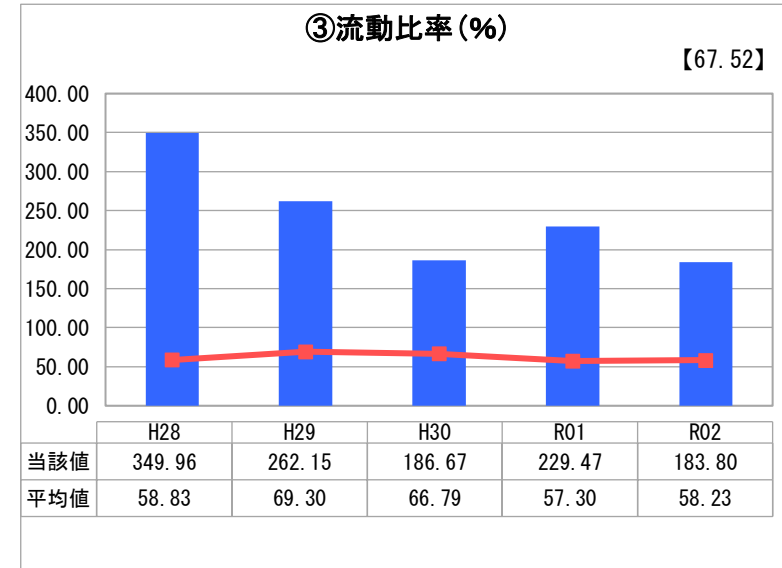
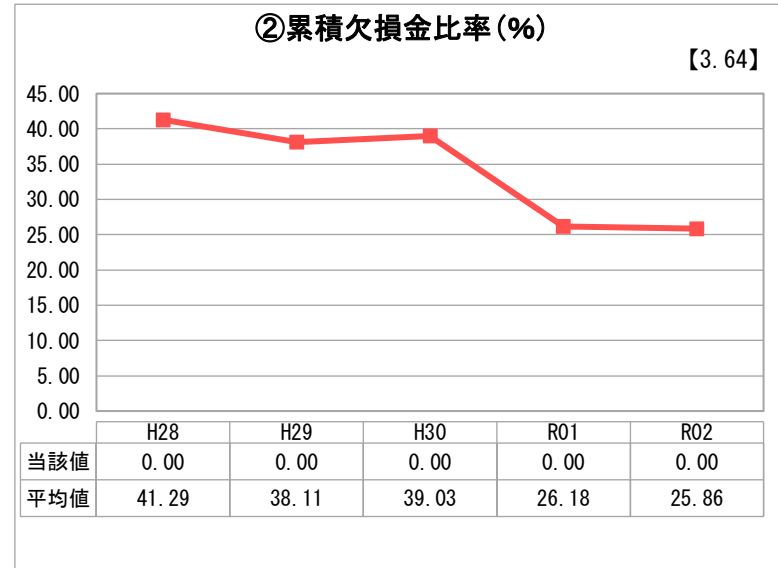
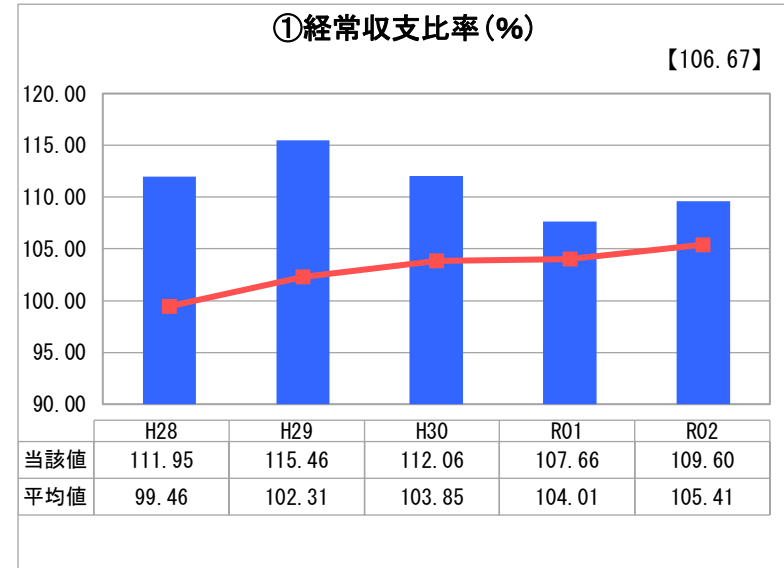
福井県 五領川公共下水道事務組合

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	65.04	5.04	41.76	2,530

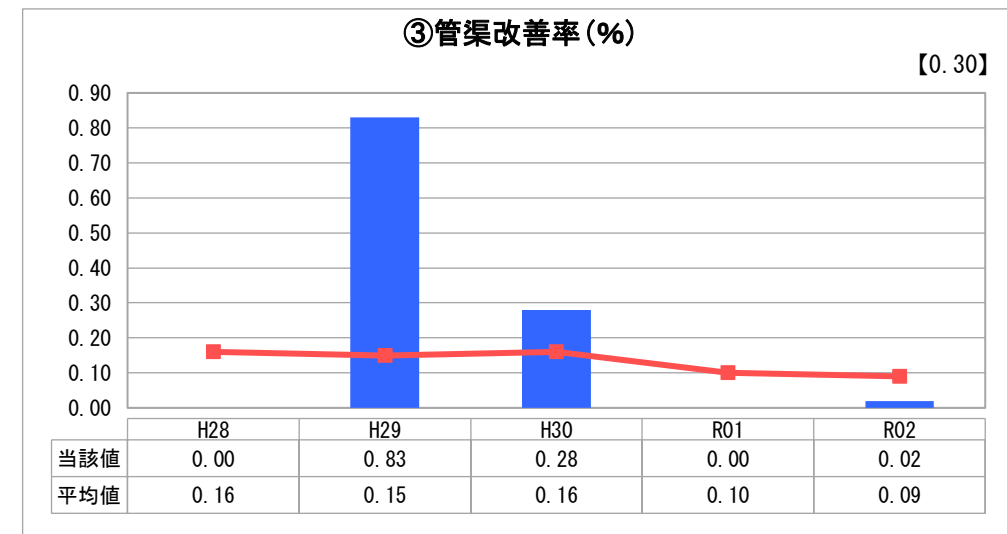
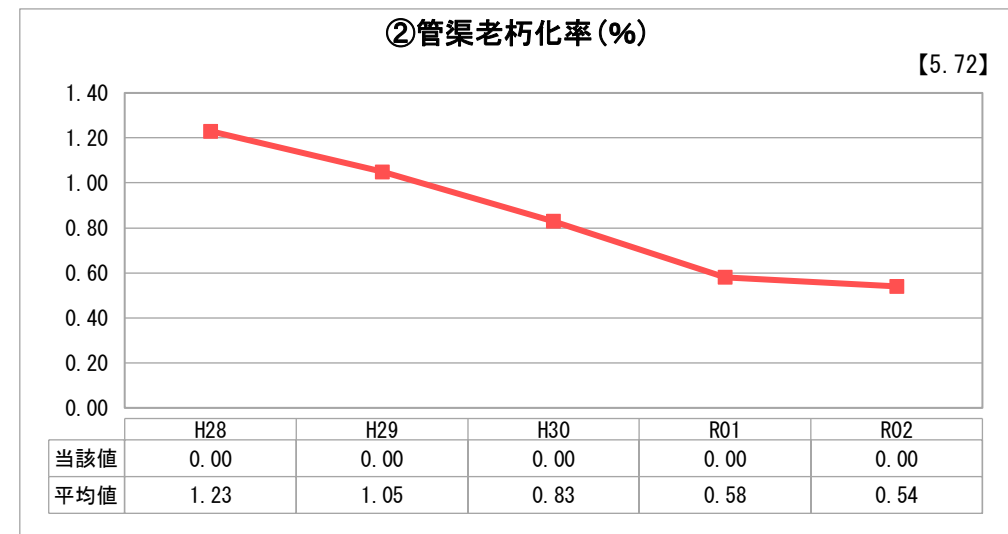
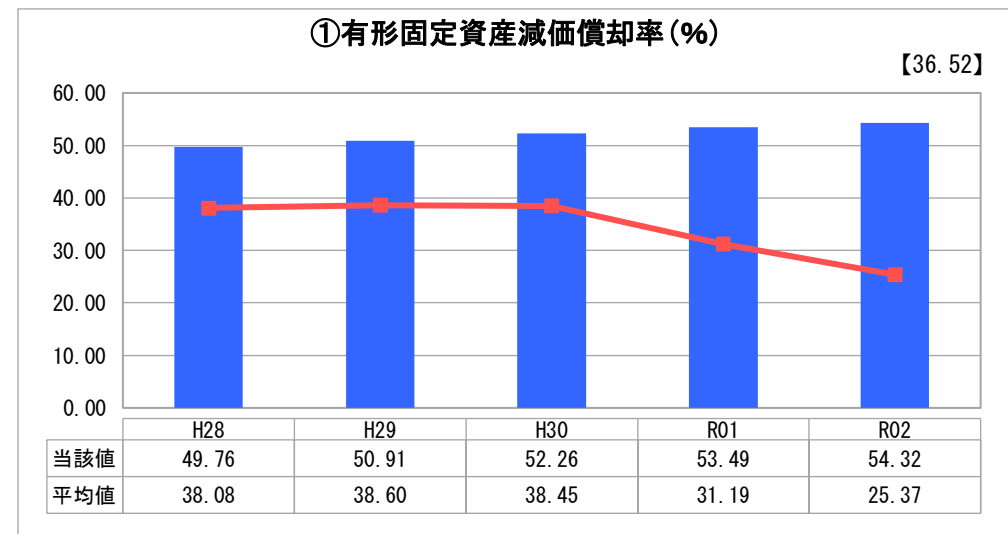
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,481	2.72	2,015.07

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は1.94%の向上がみられる。これは受託事業収益の受託汚水量の増加に伴う収入の増加および減価償却費の減少に伴う費用の減少に伴うものである。③流動比率については、留保資金の確保等現在のところ十分であるとする。④企業債残高対事業規模比率については、投資額を償還額以内に抑えているため減少している。⑤経費回収率については営業収益の増加により4.6%向上した。⑥汚水処理原価については、類似団体に比べ高く推移している。以上のことから、経営の健全性・効率性については、類似団体と比較して低いと考えられる。受託事業収益は事業の広域化によってもたらされているため、今後も広域化や共同化を推進しスケールメリットを生かしたいと考える。

2. 老朽化の状況について

供用開始後38年を過ぎ、①有形固定資産減価償却率は50%を超えている。設備の老朽化が進んでいるため、ストックマネジメント計画を策定し計画的な改築事業を行っている。管渠設備については耐用年数は50年であるため②管渠老朽化率は0%である。管内調査を行った結果不具合が見つかったため平成29、30年度に管更正工を実施した。このため③管渠改善率が増加している。

全体総括

組合では、下水道サービスを永続的に区域住民に提供していくために、平成30年度に策定した経営戦略に基づく事業計画や経営の健全化に向けた取り組みを実施している。組織市町との処理場監督管理事業の共同化や処理場のダウンサイジングなど具体的な経営の効率化に向けた取り組みを一歩ずつ実施する予定であるが人口減少社会や水需要の低下、施設の老朽化など経営環境は非常に厳しいものと認識している。今後は組織市町と協議しながら収益の改善のための方策を探っていききたい。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。